



**2010年**

**夏季全国医学生離島実習 報告書**

## 実習 目標

離島医療の現場を体験し、  
地域医療のロールモデルの1つとして、  
離島医療体制と現場における  
医師の役割を学習する。

- 1：離島医療現場における診療体制を見学する
- 2：離島医療現場におけるプライマリ・ケアを見学する
- 3：離島医療現場における保健・福祉活動を体験する
- 4：離島医療現場における全人的医療について考える
- 5：医師以外の職種の役割について考える

## 対象

全国の医学部学生 4・5年生対象

## 成果発表

8月7日(土) 奄美大島 / 県立大島病院にてシンポジウム形式で発表し、お互いに情報交換をする。  
(実習先で体験したことを紹介し、離島医療の魅力について発表する)  
(各組の診療所での共通点・相違点について討論し、離島医療への理解を深める)

## 実習期間

平成22年8月1日(日)～8日(日)

## 指導教員

嶽崎 俊郎 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター センター長  
兼 国際島嶼医療学講座教授)

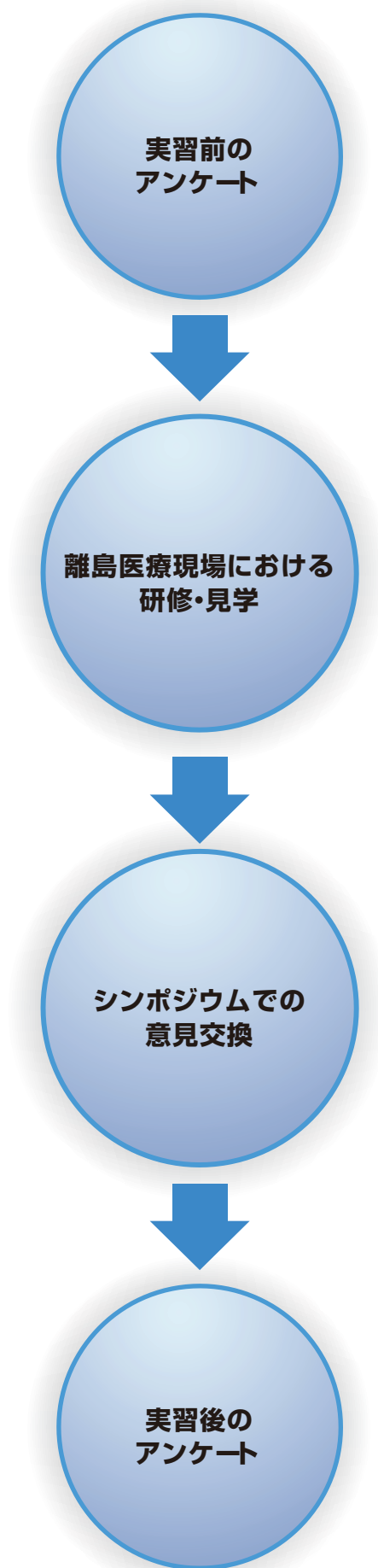
大脇 哲洋 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター 特任教授)

根路銘安仁 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター 特任准教授)

新村 英士 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学講座 講師)

平佐田和代 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学講座 大学院生)

## 実習の流れ



## 奄美大島コース

Amamioshima course

### ■ 岡田 洋介 (昭和大学 4 年)

奄美大島に行く昭和大学 4 年生の岡田洋介です。

食べることが好きなため、食文化に興味があり、色々食べ歩いています。そんな暮らしをしていると、そんな料理が生まれた背景など人の暮らしにも興味をもつようになりました。

そのせいか将来の選択肢を考えたときに、地域医療や町医者など、患者さんの生活により近い医療が自分には向いているのかなって考えるようになりました。そのため離島医療にも興味があり、今回参加させていただくことになりました。

経験したいこととしては、曖昧ですが「離島医療ならではの医療」でしょうか。

写真部に所属しているので、奄美大島の自然もとても楽しみにしています。全日程、晴れることを望んでいます。よろしくお願いします。

### ■ 永瀬 千尋 (東海大学 4 年)

はじめまして。

奄美大島での研修に参加予定の、東海大学医学部四年の永瀬千尋と申します。

私は文系の大学(スペイン語を専攻しました)を一度卒業し、社会人を少し経験してから今の大学に編入しました。

旅行、特に海が大好きなため、島と聞けば心がうずうずして仕方がありません。

フィリピンのセブ島に二ヶ月間滞在していたとき、離島やへき地の医療の現状について考える機会があり、それが今回の実習に参加するきっかけとなりました。

去年は屋久島に個人旅行で行きましたし、沖縄の海も大好きなので、今回の奄美大島初上陸を楽しみにしています。

また、全国から集まる皆さんにお会いできるのも、刺激があるのではと期待しています。

どうぞよろしくお願い致します。

### ■ 山名 正樹 (近畿大学 5 年)

はじめまして。奄美大島で実習にに参加させていただく近畿大学 5 年の山名正樹です。

出身が兵庫県の淡路島ということもあり、以前から僻地医療に興味があったので今回離島実習に参加させていただきました。

実習では離島ならではの地域住民とのコミュニケーションなどを楽しめたらと思います。

また去年からダイビングをはじめたので、奄美大島の海も楽しみにしています。

奄美大島にハブがいるなんて知らなかったので若干ビビってますがよろしくおねがいします。

## ■ 齋藤 裕子 (東海大学 4 年)

みなさん、こんにちは。

東海大学 4 年、齋藤裕子と申します。今回の実習では、徳之島で実習をさせていただきます。

私は、他の大学を卒業した後に東海大学に編入をしました。生まれは埼玉県の浦和市(現さいたま市)で、埼玉県出身の方がいらっしゃって、なんだかうれしく思っています♪

前大学で、タイ HIV ホスピスでの活動を行ってきたことなどから、医療の行き届かない場で将来は働きたい考え、今回の実習に参加させていただこうと考えました。

徳之島では、離島という特殊な環境の中で、どのような医療が行われているのかを体験してきたいと考えています。特に産科医療について、興味があります。

みなさん、そして徳之島をご一緒していただく大脇先生、榎本さん♪ よろしくお願ひいたします。

## ■ 榎本 郁子 (昭和大学 4 年)

こんにちは!! 昭和大学医学部 4 年の榎本郁子(えのもといくこ)です。徳之島で実習させていただきます。

友人からはえの、えのもと呼ばれております。

出身は埼玉県の川島町という町です。おそらく埼玉は東京と隣接しているということからは想像しにくい田舎町です。夏になると田んぼで緑がいっぱいになります。生まれ育った環境から、地域に根ざした医療に興味を持ち、今回の実習に参加することを決めました!!

現在は昭和大学のすぐ裏で 1 人暮らしをしています。大学では白馬診療部という部活に入っています。長野県の白馬岳にある頂上山荘の診療所で OB のドクターの診療のお手伝いをする部活です。先日、部内オスキーをおえてほっとしたところです。

また、中学から吹奏楽でトロンボーンをずっとやっています。今は目黒区の市民楽団に所属し、社会人の方や他の大学の学生さんに混じって楽しく楽器を吹いています。吹奏楽が大好きで、力を入れている活動です♪

こんな私ですが、充実した実習になるよう努めようと思います!! どうぞよろしくお願いします♪

## ・実習でやってみたいこと

徳之島の実習先は診療所ではなく病院でした。入院患者さんがいっぱいになってしまったときどうしているかなどのお話を先生にも聞いてみたいと思っています。また、徳之島の環境に特化したリハビリや治療があったら、体験してみたいです。

今回、離島実習に応募した動機には、私は、白馬山(長野県)を登り、山の上で診療活動を行う部活に入っており、今年から山の上で実際の患者さんを相手に診察ができるようになることが一因です。そこで、離島も山の上と同様にかなり医療器具が限られている状況で医療を行っていると考え、それに対してどのように医療者が対処しているのか実際に目で見たかったのです。また、昔からへき地医療に興味があったので学生時代に、体験したく思いました。

昭和大学は、東京の品川にある学校ですがうちの部活は、大会も何ともありませんので他の大学と関わることがありません。なので、今回様々な都道府県から様々な方がいらっしゃるの、色々情報交換をし、お互い高めあっていけたらよいと思います。一週間という短い時間ですが、どうぞよろしくお願ひします。

## 自己 紹介

### 沖永良部島コース

Okinoerabu course

#### ■ 木脇 佐代子 (秋田大学5年)

はじめまして。

秋田大学5年の木脇佐代子(きのわきさよこ)と申します。今回、沖永良部島で実習に参加させていただきます。

今まで離島・僻地の実習に参加させていただいたことがなく、大学の病院実習でしかきちんと病院を見たことがないので、違う経験をしてみたいと思っています。

また、今春に友人と屋久島へ行ったのですが、島での医療はどういうものなのか、地元の人々との関わりかたなどにも興味を持ち、応募しました。

島の文化にも興味があるので、1週間楽しみたいと思っています。よろしくお願ひします。

#### ■ 井上 博人 (奈良県立医科大学5年)

はじめまして、奈良県立医科大学の井上博人と申します。

今回、沖永良部島で実習させていただきます。出身は三重県で、まあ田舎です…

アウトドアのサークルに所属していて、色んな離島、僻地に行く機会があり、地元の人と接したりしているうちに、離島の医療について興味がわき、今回の実習に参加することにしました。

実習では限られた人数でどう診療にあたっているのか、離島で医療の連携をどう行っているのかなんかを学べればなと思っています。

あと、色んな大学から人が集まっているので、色々話が聞ければ良いなと思っています。

どうぞ、よろしくお願ひします。

#### ■ 岩崎 文紘 (徳島大学4年)

こんにちは。はじめまして。徳島大学五年の岩崎文紘です。

今回の実習は初参加で、沖永良部の実習に参加させていただきます。

大学は徳島ですが出身は高知県高知市です。高知県出身の岩崎ということで、同級生からはヤタロウなど

と呼ばれています。でも子孫ではないです。

私は現在、徳島大学で総合診療学分野(谷教授)と地域医療研究会にお世話になっています。その関係で、徳島県内や県外の医療過疎地域で何度か地域医療実習をさせていただきました。

ただ、離島医療はいままでの実習経験には無いので、今回の実習は非常に興味深く、楽しみにさせて頂いております。離島医療ならではの経験が出来たらと考えております。他の島々も訪れたことが無いので、沖永良部島を選択した理由は特に無いのですが、しいて言うなれば沖永良部にはハブがないことです。でもハブがいる島も魅力的そうですね(笑)

余談ですが、行きは鹿児島中央駅に降り立つので西郷隆盛ゆかりの鹿児島市内、帰りは鹿児島空港に降り立つので坂本竜馬ゆかりの霧島を、観光していこうと考えております。

こんな自分ですが、今後ともよろしく願います。

自己  
紹介

## 与論島コース

Yoron course

### ■ 安井 理 (高知大学5年)

はじめまして、高知大学の安井理(やすいおさむ)と申します。

埼玉県の大宮市(現さいたま市)生まれ、小学校から神奈川県の子で育ち、中学高校は東京の学校に通っていました。このように書くと「都会人っぽい」と思われるでしょうか。しかし実際のところは、都会の洗練された雰囲気など全くない人間です。

昨年度、大学を1年間休学し、半年ほどアフリカのケニアに行き、NGOでHIV/AIDS関連の活動などをしていました。そこではいろいろな発見もありましたが、同時に「日本のことをもっと知らなきゃ!」という思いも強くなり、今回この離島実習に応募させていただきました。

与論島での実習になりますが、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

### ■ 八代 悠希 (鹿児島大学3年)

鹿児島大学3年、八代悠希(やつしろゆき)と申します。

出身は鹿児島県の大隅半島にある鹿屋市というところです。私の幼いころ、祖父の病気や自分自身の通院で、鹿児島市内との医療の差を感じるがありました。それから地域医療に興味をもつようになり、今まで2回の離島実習に参加させていただきました。

一昨年が屋久島、昨年は瀬戸内でしたので、今回参加させていただきます与論島が、人生で経験した島の中で最南となります。

高校では吹奏楽でパーカッションを演奏していました。大学ではテニス、書道、着付けをしています。

県外の大学の方々とお話できるのもとても楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

■ **坂田 桃子** (鹿児島大学 3年)

出身地 福岡県 久留米市

部活 ゴルフ部

趣味 テニス

・実習でやってみたいこと


これからの医療者として、医学的な実習や地域の方とのコミュニケーションなど、講義では学べない離島医療の現実を実際に体験したいです。






# AMAMIOHSHIMA

## Access

鹿児島新港  名瀬港  
フェリー

鹿児島空港  奄美空港  
飛行機

### ◆鹿児島新港からフェリーで

マリックスライン (株) のクイーンコーラルプラス、クイーンコーラル及びマルエーフェリーのフェリーあけぼの、フェリーなみのういで約 11 時間

### ◆鹿児島空港から

飛行機で約 50 分



## 瀬戸内町 へき地診療所

### ■参加メンバー

【担当：離島へき地医療人育成センター 特任准教授 根路銘 安仁】  
 ・岡田 洋介（昭和大学4年）  
 ・永瀬 千尋（東海大学4年）  
 ・山名 正樹（近畿大学4年）

（敬称略）

住 所	〒894-1507 大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西13-2
TEL/FAX	電話 09977-2-3211 FAX 09977-2-3762
管理者(院長)	橋口 正隆 (2011年3月迄)
メールアドレス	hekichi@amami-setouchi.org
診療科目	内科・外科
診療時間	8:30~12:00/14:00~17:00 土・日・祝・年末年始休診
病床数	19床
スタッフ	医師2名、看護師13名、放射線技師1人、事務8人、看護助手3人、調理員4人
設 備	心電図、人工呼吸器、エコー、レントゲン、手術室、CT、生化学分析装置、全自動血算器、呼吸機能検査装置、血ガス分析器、Holter心電計



橋口 正隆 所長



平野 拓郎

### ●院長からのメッセージ

へき地の診療所であっても都会の総合病院であっても基本的な考えは同じで、「自分がしてもらいたいことを患者さんにも提供する」ということです。自分や自分の身内と思って検査、診断、治療、説明、紹介などするように心がけること。そうすることで医師として人として成長するのではと思いつつ、私自身日々努力しているところです。なかなか容易にはできませんが……。

### ■施設の特徴・実習内容

自治医大卒の医師（内科系1人、外科系1人）計2人で診療しています。通常1人が診療所で外来診療（胃・大腸内視鏡、各種超音波検査も含む）や各種検診、入院患者（19床）の管理を担当し、もう1人が巡回診療をしています。いわゆる「町のお医者さん」として赤ちゃんからお年寄りまで、慢性期疾患から救急疾患（応急処置、必要に応じて搬送）まで特殊な疾患を除いたほぼすべての治療に携われることが魅力的です。巡回診療では主に慢性疾患の管理が中心となりますが、巡回バスという全国でも珍しい形態で診療を行っています。是非一度体験して下さい。

## 実習の流れ

### 8月1日(日)

18:00 鹿児島新港発

### 8月2日(月)

05:00 名瀬港着

06:26 古仁屋着

09:30～20:00 母子の新生児訪問・ケアマネ訪問

13:00～15:30 タラソ健康づくり教室

15:30～16:00 交流会(民宿ココナッツハウス)

夕方 夕食会(役場職員)

05:00 名瀬着

05:00 古仁屋行バス

民宿「みさき」泊

### 8月3日(火)

診療所実習(瀬戸内町へき地診療所)

民宿「みさき」泊

### 8月4日(水)

診療所実習(瀬戸内町へき地診療所)

民宿「みさき」泊

### 8月5日(木)

地域診断実習

民宿「みさき」泊

### 8月6日(金)

地域診断実習

21:00 報告会発表準備

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月7日(土)

08:00～13:40 奄美北部観光

14:30～17:30 報告会(各グループ20分、全体討論30～60分)

18:00～21:00 食事会(ビーチパーティーBBQ)

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月8日(日)

08:00 解散

## 実習後の感想



### 岡田 洋介 (昭和大学 4年)

根路銘先生をはじめとした鹿児島大学の皆さん・奄美大島古仁屋市役所の皆さん・僻地診療所の平野先生と橋口先生、今回はありがとうございました。

ちょうど一年前に鹿児島と屋久島を訪れていたこともあり、大学でパンフレットを見たときに興味を持って参加を決定したのですが、参加してとても良かったです。

医療面での体験（診療バスでの加計呂麻島の往診見学・診療所での一日実習・タラソセラピー）も良い思い出ですし、島の生活スタイルや自然などを見る機会に恵まれていたという意味で楽しかった上になんてよかったと思っています。

市役所の方々もフレンドリーで特に肥後さんと菱沼さんのことは忘れなさそうですし、島民のみなさんの話を診療所や加計呂麻島で聞いていて、人に対する垣根が低いなあと感じました。大学の实習でも患者さんと話す機会があったりしますが、やはり少し警戒されてるかなと感じることが多いです。

たとえば、患者さんと山名くんの手術中のやりとりも大学病院などではあんな和やかなムードではまずないでしょうし、そういうところに俺は惹かれるんだなあと、この感想を書いてて実感しています。

名瀬で集合後に行った4島の実習発表会も良かったです。なかでも、与論島班が言っていた死生観の違いというのは興味深かったです。また海が奄美大島以上に綺麗だということなのでダイビングにしてみたいのですが、奄美までのフェリーでさえ苦手だったので、今後機会を見つけて空路もしくは沖縄経由で与論島に行ってみようと思います。

班員にも恵まれましたし、機会を設けて関東組で飲みに行きたいです。また変わったところで、奄美で朝7時起床の生活だったために、東京で夜更かしして深夜に寝ても朝8時には目が自然に覚めるというリズムが今も継続中で、以前より健康な生活になりました。

奄美大島での一番の思い出は、海が透明で綺麗で魚に恵まれた場所であること。今回、久々にダイビングをしましたが、またハマリそうです。観光日のダイビングを終えて、「自分の子供が小さい時にこんな海の近くで生活し、みせてあげることができればいいな。離島医療に携われたら可能だな」との考えが生まれたので、ある意味では観光日のダイビングで離島医療に携わるというモチベーションが最も上がった気がします。

色々わがままを言った記憶がありますが、いつもニコニコしていた根路銘先生が印象に残っています。先生、ありがとうございました。東京に諸用で来られて時間があるときは連絡くださいね。



### 永瀬 千尋 (東海大学 4年)

離島実習の7日間。それはとても濃くて思い出深い夏の思い出となりました。今年の夏休みは非常に短いこともあり、どうしたら有意義かつ楽しく過ごせるかと考えていました。そんな折、離島実習の存在を知り、南の島に行けて、旅行をするよりはお金もかからないし、実習も勉強になりそうだし、きっと参加して無駄はないだろうとの軽い気持ちからの参加でした。

班のメンバーとは、実習一日目には、既に打ち解けていました。鹿児島から船に揺られて11時間という事や、現地到着が早朝5時、着いてみるとエアコンのない民宿、という何となくサバイバルな環境で、距離が急速に縮まったことも大きいと思います。3人というメンバーも、良かったのかもしれない。医

学部同士ということも当然あるのでしょうか。それにしても本当にこんなにもうまが合う人たちと同じ班になれて良かった、これは来た意味があったぞ(笑)と初日から嬉しかったです。

皆マイペースで、やる気がものすごくあるというわけでもなく、でも根っこの部分は真面目で。そしておいしいものが大好き。笑。そして、引率して下さった根路銘先生。まるで私たちにとってお父さんのような存在で、一人一人あくが強い私たちに心広く付き合ってください、民宿や病院の寮で皆で寛いでいるときはまるで家族のようで、本当に楽しく充実した日々でした。

実習についてですが、まず瀬戸内町の役場の方々がとても暖かく迎えてくださったことや、職員の方同士がとても仲良しなのは驚きました。また初日のケアマネージャーさんに同行させて頂き患者さんのお宅を訪問させて頂いた際には、患者さんの生い立ちやご家族についてのお話を伺ったり、お家の様子(三味線や、命名短冊を飾る習慣やお仏壇、海のすぐ目の前という立地や、畑の野菜の様子など)を見させて頂いた事も離島ならではの経験となりました。

初日の晩は、役場の方々が歓迎会を開いてくださり、その際には私と年齢の近い女性の職員の方とお話をする機会があり、同年代の方の考え方や島での恋愛・結婚事情などについてもお話を伺うことができ、楽しかったです。

実習二日目は瀬戸内町へき地診療所の巡回バスで加計呂麻島へ同行させていただいたのですが、まずバスが診療所としてかなり問題なくその役割を果たしていることに感心しました。また、バスが到着する頃にはかなり車酔いをしてしまうのですが、40人もの患者さんが診察を並んで待っていたり、炎天下の中、平野先生が歩いて患者さん宅まで往診もされていて、これはかなり大変な仕事だなと感じました。そんな先生ともバスでの移動の際には瀬戸内町での暮らしや医師としての離島での勤務についてなど、気さくにお話をしてください、これもまた貴重な体験となりました。

三日目は診療所での実習でしたが、外来での患者さんのへの対応や、初めて粉瘤の手術を見させて頂いた事が勉強になりました。また、私は83歳の男性の方からお話を伺ったのですが、例えば、たんかんの栽培をされていたり、若い頃は神戸で長い間出稼ぎをされていた事や、奄美大島の復興作業に携わったご経験についてなど、島ならではの事情をお聞きしました。また診察の際には、平野先生が、お灸の痕のある患者さんが瀬戸内町には多いですね、とも仰っていて、医療の知識だけではなく患者さんの習慣や背景にあるものを知る事の大切さも感じました。

観光としては、シュノーケリングやカヌーなど、奄美大島の自然を満喫しました。また町内のおいしいジェラートのお店に通ったり、コープでおつまみを買出ししたり、夜は扇風機の部屋で飲んだり、そんな他愛のない時間のすべてが、このメンバーとの楽しい思い出です。

楽しいだけではなく、みんな白衣を着れば将来の頼もしい医師としての姿が見える、同じ目標を持った仲間であります。

そんな皆と出会えたこと。そして医師としても人生においても先輩でもある根路銘先生に出会えたこと、が、この夏の一番の収穫だと思っています。参加させて頂いたこと、そして一緒に過ごした時間、みんなのあたたかさ、本当にどうもありがとうございました。これからもお互い頑張っていきましょう!

そして let's keep in touch!





## 山名 正樹 (近畿大学5年)

今回の離島医療実習では奄美大島の瀬戸内へき地診療所で実習をさせていただきました。実習ではタラソや巡回診療、診療所での外来など、大学病院では経験できないことをいろいろ経験させていただきました。

僻地医療に対して僕自身が勝手に持っていたイメージは、ほとんどいない患者さんをいつ来るのだろうと病院で気長に待つというようなものを想像していたのですが、実際は全く違いました。2人いる先生方のうち1人が巡回診療に行き、もう1人が診療所で入院患者や外来患者を診ておられました。

巡回診療ではバスに乗って各集落を回り診察をおこなったのですが、これに使用するバスは中が簡単な診療所ようになっており、バスの中で診察から薬の処方までおこなっていました。各集落に出張診療所のような施設を設置すればいいのではないかとこの考え方もあるかもしれませんが、集落によっては数世帯で10人もいないようなところもあり、そのような集落では施設の維持が困難だと思います。巡回診療に来られる患者さんは主に慢性疾患のフォローの方が多く、定期薬をもらうために長時間かけて診療所にきてもらうよりはバスで巡回したほうが患者さんの負担はかなり少なくなります。また、診察の待ち時間では集落の人ほぼ全員が顔を合わせるの、いい交流の場になっているようでした。

今回の実習では診療所の方だけでなく、瀬戸内町では役場の方々にも大変良くしてもらい、歓迎会の席では診療所をもっとよくしていきたいという熱い想いも聞かせていただき、僻地医療について改めて考える良いきっかけになりました。

実習を終えて、どうすれば僻地に医師を確保できるのかと考えたら、まず、医師は自分が僻地医療をすることになったらどのようなことに不安を持つのだろうか思いました。それまでずっと大学病院などで専門的なキャリアを送ってきた医師なら、やはりしっかりとプライマリーケアができるのかということに不安に思うだろうと思います。だから、改めてプライマリーケアや田舎での人間関係、生活の楽しみ方などを研修でき、そのような不安を解消できるようなシステムがあれば、少しは医師の確保に役立つのではないだろうか思いました。

僕自身、将来は地元の淡路島で医療を行っていきたくて考えているので、今回の実習は大変有意義なものとなりました。お世話になった先生方や関係者の皆様、本当にありがとうございました。



## 1 前日の食事会

### よかった点

- あらかじめメンバーと顔合わせができるので、フェリーなど翌日のコミュニケーションがとりやすかった。

### 改善した方がよい点

- 立食形式と違い、自分からはからみづらいので時間ごとに席をずらすとかいいかもしれません。

## 2 ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

### よかった点

- 初対面で緊張しましたがリラックスした雰囲気でした。
- 駅から近く、屋内もきれい。
- みんなで買出しすると緊張がほぐれる。

### 改善した方がよい点

- なんとなく第一印象が微妙でした。ただ、学生同士の会話のネタにもなったし、良かったかも。

## 3 フェリー

### よかった点

- 現地集合であれば良いのにと初めは思いましたが、他の班の方と仲良くなるきっかけがこのときしかないのでは結果的には良かった。
- 離島に行くという実感がある。メンバーと仲良くなれる。
- 離島に行ってる！！って気になる。



### 改善した方がよい点

- 船旅は長いしつらい時もあるから、その日に食事会して翌日の飛行機で行くというのもありかも。奄美班は、ヨロのほうに行く日を作り、徳之島以南は奄美からの移動がフェリーとか。
- 船酔いする人には辛そうだった。

## 4 実習先(医療機関・行政機関)

### よかった点

- 瀬戸内町の役場の方がとても暖かく歓迎してくださったので嬉しかった。瀬戸内町へき地診療所の平野先生もとても親切な先生で良かった。
- 東京では体験できない医療が体験できた。島の方と話すのも楽しいし、医師と地域の関係などもみれるのでよかった。
- 役場の人がみんなとてもいい人だった。

### 改善した方がよい点

- カケロマ・・・酔いますから、ルートのきつくないやつを選んでほしいかも。あと、炎天下の芝での3時間弱話を聞くというのはつらいかも。話は楽しいのですが、あれだけ長いとネタが続かないです。・診療所・・・やはりずっと話をするというのがきついのかも。例えば、話をする→医師の問診に付き添う→患者さんが帰られたら、カルテを見るとかのしゃべらず考える時間とかあってもいいかも。ただ、もっと患者さんがいて忙しければ気にならないのかもしれないです。血圧測ったり、耳鏡みたりは楽しかった。



## 5 宿泊施設(各地施設・むつみ寮)

### よかった点

- 小さな民宿に班のメンバーだけで泊まっていたのでくつろぐことができた。
- 民宿に泊まる機会はありませんので、いい機会になった。むつみ寮に泊るのも現地の医師の生活を知るという意味でよかった。バーベキューの後、班で集まったりというのも修学旅行みたいで楽しかった。

### 改善した方がよい点

- エアコンが使える宿泊先にしたほうがよいかと思います。
- エアコンが・・・
- 民宿はせっかくなら郷土料理を作ってもらえるようなところがいいかなって思いました。



## 6 観光

### よかった点

- 先生のおかげで、行きたいところにはすべて回ることができ、おいしいお店にも行けたので満足しています。
- 奄美の自然を満喫できたし楽しかったです。ダイビングやシュノーケルをほかの島のメンバーと合流後に入れてもいいかもしれません。
- 全部。



### 改善した方がよい点

- 今回、自分があつかましいというか変わっている人間だったからいろいろリクエストでき楽しめたと思います。ふつうは先生に遠慮してしまうと思うので、観光プランをいくつか最初のスケジュールにのっけてもらえると、まじめな方々も楽しめると思います。

## 7 報告会

### よかった点

- 他の班での様子も知ることができ良い機会となった。
- 写真を用いて説明がある点はいいと思います。特に、最後にディベートのような形で話し合えたのは良かった。
- 他の島のことが聞けた。



### 改善した方がよい点

- あの少しゆるーい感じが個人的には好きなので、特にないです。バーベキューですが肉だけでなく、ミズイカとか海産物などを増やしてもいいかも。
- 改善というか最後にみんなで集まれなかったのが、唯一悔やまれる点です。
- 特になし

## 8 奄美解散

### よかった点

- 空港から関西・鹿児島・羽田・沖縄への便と選択肢が多いのでありがたいです。
- みんなそれぞれの帰り方があるのでいいと思います。
- その後沖縄に飛ぶ方や観光される方もいたのでこれはこれで良かったのかと思います。

## 改善した方がよい点

- 帰りはフェリーを予約していましたが、飛行機に変更しました。フェリーのつらさを事前知っておくべきか、否か・・・今となってはどちらが良かったのか私にも分かりませんが。
- 解散が意外とあっさりしていたのが寂しかったです。

## 9 参加費用

### よかった点

- 安くてよかった。
- 現地への交通費の他は殆ど自費での負担がなかったのととても助かりました。どうもありがとうございます。



### 改善した方がよい点

- 改善というわけではないですが、実習も観光も料金設定を上げれば選択肢がまだあるのなら、もう少し高くしてもいいかも。
- 無理かと思いますが、鹿児島までの交通費が出ればもっとうれしいです。

## 10 実習全般

### よかった点

- バスでの巡回診療にも同行することができ、また医師の先生方や島民の方とも個人的にお話を伺うことができたので、形だけでなく身のある体験ができたと思っています。
- 楽しかったし参考になったしで、満足です。先生方の、実習先の振り分けが的確だったのではないのでしょうか。
- 他大学の人と仲良くなれてよかったです。


### 改善した方がよい点


- 1～9まであげたとおりです。
- すごく楽しかったので、とくにありません。



# TOKUNOSHIMA

## Access

鹿児島新港  亀徳港  
フェリー

鹿児島空港  徳之島空港  
飛行機

◆鹿児島新港からフェリーで

マリックスライン (株) のクイーンコーラルプラス、クイーンコーラル及びマルエーフェリーのフェリーあけぼの、フェリーなみのうえで約 15 時間

◆鹿児島空港から

飛行機で約 1 時間 20 分



## 医療法人南溟会 宮上病院

### 参加メンバー

【担当：離島へき地医療人育成センター 特任教授 大脇 哲洋】  
・榎本 郁子（昭和大学4年）  
・齋藤 裕子（東海大学4年）  
・三浦 明子（東京大学病院）

（敬称略）

住 所	〒891-7101 大島郡徳之島町7268
TEL/FAX	電話 0997-82-0002 FAX0997-82-0695
管理者（院長）	宮上 寛之
メールアドレス	nanmeikai@po5.synapse.ne
診療科目	内科・外科・消化器科・小児科・産婦人科
診療時間	平日 午前9:00～12:00 午後14:00～18:00 日曜日・祝祭日：休診
病床数	41床



宮上 寛之 所長

### 施設の特徴・実習内容

医療法人南溟会 宮上病院は、明るくリラックスした雰囲気です。受診できると高齢者のみなさまにも評判です。困った事があれば、ベテラン看護師になんなりとご相談くださいませ。私どもは、親切、丁寧はもちろんのこと、正確な診療を柱として、これらの充実に真剣に取り組む事が使命だと考えております。これからも地域の皆様一人一人の健康と、幸せを見守り続けてまいります。

#### 【関連施設】

- 特別養護老人ホーム「南風園」
- ケアハウス「いこいの里」

## 実習の流れ

### 8月1日(日)

18:00 鹿児島新港発

### 8月2日(月)

09:10 亀徳港着

10:00 ~ 12:30 徳之島保健所

(1) ハブ咬傷関係の講義、ハブ見学

(2) レクチャーと雑談「くらしに寄り添う保健と福祉」(上床所長)

13:30 宮上病院集合

13:45 病棟回診

15:00 訪問診療

18:00 地域住民との交流会

宮上病院 泊

### 8月3日(火)

診療所実習(宮上病院)

宮上病院 泊

### 8月4日(水)

診療所実習(瀬戸内町へき地診療所)

宮上病院 泊

### 8月5日(木)

地域診断実習

17:00 亀徳発

20:25 名瀬港着

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月6日(金)

地域診断実習

14:00 ~ 17:00 ネリアクリニック訪問診療(笠利町:佐仁集落)

21:00 報告会発表準備

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月7日(土)

08:00 ~ 13:40 奄美北部観光

14:30 ~ 17:30 報告会(各グループ20分、全体討論30~60分)

18:00 ~ 21:00 食事会(ビーチパーティーBBQ)

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月8日(日)

08:00 解散

## 実習後の感想



## 榎本 郁子（昭和大学 4年）

私は、生まれ育った地域での医療の不十分さを感じ、地域医療についてもっと知りたいと思い、今回の離島実習に参加させていただきました。実際に参加して得たものはとても大きな体験でした。

まず、離島にフェリーで移動です。観光用のフェリーに乗ったことはありましたが、1日の大半をかけて移動するようなフェリーには乗ったことがありませんでした。昨年実習に参加した先輩から、船酔いがすごく辛かった方もいたと聞いていたので心配でしたが天候にも恵まれ、気分が悪くなることなく過ごせました。しかし、長時間ということもあり、離島へ行ったりきたりすることの大変さを実感することができました。

徳之島へ着いた日は、始めに保健所の訪問をしました。実際のハブを見せて頂き、その迫力に圧倒しました。熟練した方でなくては危なくて近づけない事が一目瞭然でした。ハブを買い取る事、その後ハブはどうなるのかなどを教えてくださいました。ハブの値段が変わること、昔はハブを食していたが今はない事を聞いて、時代によってハブとの関わりも少し変化していると感じました。治療のお話も伺いましたが、現在の治療を持ってしても咬傷後の麻痺などが残ってしまうことを知り、関東に住む私には知らなかった島独特の疾患を1つ知ることができました。所長さん、保健師さんのお話から、島での医療についてお話を聞きました。徳之島は長寿・子宝の島と言われているが、'長寿'の部分には裏があるという事を知って驚きました。子宝の島に関わらず、産科医が1人しか島に常駐していない問題や、島という環境での不妊の方の大変さの問題、精神科患者さんの多い事を聞くことができ保健所や医療機関の担う範囲の幅広さを実感しました。

その日の午後から宮上病院で医療の見学を行い、回診や往診に同行させて頂いて感じたことは、先生方は患者さんの疾患以外のこともよくご存知で（患者さんのご家族の方で「この方は8人のお子さんのお母さんだよ」と教えて頂いたり、お家の状態などもお聞きしました）、病院のお医者さんであるのに家庭医のような存在であることにはとても感銘をうけました。また往診に同行させて頂き、真夏の徳之島を限られた時間で回っていくことは大変で、医療者は体力勝負だと言う事を改めて実感しました。奄美大島でもネリアクリニックの徳田先生の往診に同行させて頂きました。先生の往診は問診や会話を大切にしている（家の様子などについても一緒に考えていたり）、疾患を診るのではなくその人を診る「全人的医療」を学んだように思います。往診先で、一緒についていって何もすることができない私達にもお茶やお菓子を出して下さったり、先生が患者さんやご家族の方にすごく感謝されていることを感じました。

観光からも得たものはたくさんありました。海や植物などの豊かな自然はやっぱり魅力的で癒しでした。しかし、自然を守る上で開発が進まない部分があるということも同時に知る事になり、外から来た私達には理解していなかった島の事がまだまだたくさんあるんだなと改めて思いました。一緒に参加した他の大学の方とも仲良くして頂いて、別れる時は何だか寂しい位でした、一緒に過ごした時間は短かったですがそれだけ濃密な体験をしたのだなと感じています。

今回の経験から、更に地域医療に関心を持つようになり、魅力的に思うようになりました。このような体験を与えて下さった先生方、一緒に参加した皆さんにとっても感謝しております。

ありがとうございました。



## 齊藤 裕子（東海大学 4 年）

離島実習に参加して早くも1週間が経とうとしています。関東に戻り、すぐに試験から大学が始まり、あっという間に日々が過ぎました。離島実習を思い出すと、毎日がとても刺激的で楽しく、そして私にとって初めての病棟や外来、往診実習をさせていただき、大学での机上の講義では得られない多くの知識や経験を持つことができました。ここで、徳之島での日々を思い返し、学びを振り返っていきたいと思います。

徳之島は「長寿子宝の島」と例えられ、特に家族が高齢者を大切にしている場を多く目にしました。在宅で寝たきりとなった祖父母を家族が看るといった形が自然に行われていて、家族の絆が強いことがとても印象的な「人の優しい」島であったと記憶しています。今回実習を行わせていただいた宮上病院は、島の中核病院の一つであり、ほとんどの科を備えていました。実習に参加する以前、私はいわゆる「診療所」をイメージしていたため、患者さんが島内で治療を受けることができる環境が整っていることに初日から「離島医療」のイメージが変わりました。病棟や外来、往診に同行させていただきましたが医師や看護師などの医療関係者と患者さんの距離が非常に近いことが印象的でした。医師が患者さんの元へ行くと、患者さんは笑顔で迎えてくれ、身体問題の訴えだけではなく家族内での悩み、若い患者さんでは将来の進路についてなど様々なお話をされていました。大学病院では限られた時間の中で多くの患者さんを診なければならず患者さんではなく「疾患」に焦点を向けてしまうことが多くありますが、まず医療者と患者さんという関係性の前に、「人と人」との関係性を築く必要があることを実習では思い出させていただきました。特に、宮上先生や加治屋先生の患者さんへの診察のあり方は大変勉強となりました。生命を預からせていただく医師であるからこそまず信頼関係を築くことが大切なのだということを再確認しました。日々の生活の中で時に辛くなりもう勉強したくないと逃げ出したくなることもあります。しかし、将来この知識は「自分」ではなく「患者さん」の生命を救うことになるのだということを教えていただきました。基礎科目を学んでいるこの時期にこのような経験することができ身が引き締まりました。

また、今回の実習で経験したかけがえのないものとして「人との出会い」があります。他大学の学生と出会い、みなさんが将来どのような進路に進もうとしているのかをお話をする事ができ、自分が「なぜ医師を目指したのか、何がしたかったのか」を改めて考え直す機会となりました。他大学の方とお話をする機会は少なく、まして船内や徳之島班の3人では共同生活を送りながらという、出会って間もないときにこのような環境を共有できたことはとても思い出になりました。また、離島医療の現場の第一線で働く先生方とお話をさせていただくことができ、刺激を受け、私も将来は先生方のように患者さんの力になることのできる医師になりたいと強く感じました。そして徳之島では宮上病院の宮上先生や加治屋先生、看護師さん、スタッフの方たちには大変お世話になりました。先生方や看護師さんからは医療者としての姿勢、そしてスタッフの方たちには年齢が近かった方も多く、島での楽しい生活を教えていただきました。

このレポートを書いていると実習での日々がとても懐かしく、また参加したいという気持ちが溢れてきます。先生、学生のみなさん、そして宮上病院のみなさま、本当に貴重な体験をさせていただきましてありがとうございました。

次回お会いできる日までに私自身が成長できているよう努力をしていきたいと思っています。

またお会いできる日を心から楽しみにしております。



## 1 前日の食事会

### よかった点

- 鹿児島島の黒豚を美味しく頂きました!! 全員が同じ島に行くのではないので、違う島の方とも少しでも多く一緒にいられて仲良くなれたと思います。
- 船に乗る前に、先生方や参加メンバーと顔合わせができ、安心して実習1日目から参加することができました。

### 改善した方がよい点

- 特にありません…強いていえば、お店の場所まで少し迷ってしまいました。
- 当初はこのような食事会があることを知らずに、チケットを先にとってしまいそうになったので、参加決定をしていただいた 時点で前日にお食事会があることを知っていたら、焦らずに済むかと感じました。

## 2 ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

### よかった点

- 明るいお部屋で良かったです。皆で買出しに行くのも楽しかったです。
- メンバー初の共同作業の買出しで、とても打ち解けて仲良くなれました。
- 先生方やメンバー全員で顔合わせや自己紹介、その後の日程などを確認でき、安心しました。

### 改善した方がよい点

- 場所が多少わかりにくかったと思います。

## 3 フェリー

### よかった点

- 離島への交通の便を理解するために必要だと思いき、私達が普通に生活する上で経験できないことなので良かったです。



- 初めは酔ったらどうしようという不安しかなく、余裕もありませんでしたが、経験後に振り返ると、離島に向かっているという実感が得られること、長い時間をメンバーと共に船上で過ごした経験はとても貴重なものだったと感じます。

### 改善した方がよい点

- 船の様子がどんな感じかをあらかじめ少しでも知れたら…と思いました。
- やはり、酔いやすい体質を持つ方にとっては不安が大きいと思います。「不安を持ちながら経験したメンバーもいましたが後にとても楽しかったと言っていた」、などの経験談を事前に教えていただけるともっと余裕を持って乗船できると思います。

## 4 実習先(医療機関・行政機関)

### よかった点

- 先生方の医療への熱い姿勢を拝見しました。宮上病院では、回診、外来の見学から特養や地域家庭への往診まで幅広く見学させて頂き色々な場面を見ることができました。
- 保健所への訪問は島独特の疾患といえるハブ咬傷について勉強できてよかったです。医師の所在と人数や出生率など保健所で詳しく教えてもらって島の医療を数字からも理解できた事もあったので有意義な訪問でした。
- ネリアクリニックでも往診に同行させていただき丁寧な診察を拝見させて頂き尊敬する先生に出会えました。
- 全てのスタッフ、患者さん、島民のみなさまが温かく迎えてくださり、とても楽しく充実した日々を過ごすことができました。



### 改善した方がよい点

- 病院、診療所、保健所などの活動を幅広く見せて頂いたので、知りたい点で残すところは産業医活動でしょうか。私が都内で地域医療実習を経験したときは産業医活動も中心になっていたので離島ではどうだったのか、どんな違いがあるのか、後から少し気になりました。
- 今回実習をさせていただいた医院は多科を持つ比較的大きな機関でしたので、島にある他の比較的小さな規模の診療所も見学させていただきたいと感じました。

## 5 宿泊施設(各地施設・むつみ寮)

### よかった点

- 宮上病院の当直室では何不自由なく生活させていただきました。
- ごはんもおいしく頂きました。
- むつみ寮もきれいで過ごしやすかったです。
- メンバーとの共同生活をとても楽しく過ごさせていただきました。とてもきれいで過ごし易く、良い思い出ばかりです。

### 改善した方がよい点

- 特にありません。



## 6 観光

### よかった点

- 徳之島では行きたかったところに連れて行っていただけて楽しかったです。体質上海には入れないと思っていたので、1日早く奄美大島に入るという計画もよかったです。
- 奄美大島のカヌーは初体験で最初は不安でしたが、楽しかったです。徳之島班は1人少なかった



たので奄美班と一緒に行ったのも盛り上がり楽しかったです。

- 7日の観光でも、きれいな海景色、ごはん、美術館・博物館も見ることができて大満足です。
- 有名で楽しい箇所を回っていただくことができ、とても楽しく、おいしく、みんなで観光ができこのような日を設けていただきうれしかったです。

### 改善した方がよい点

- 島・自分の問題ですが、徳之島の観光名所やご飯処をもっと地元の方に聞き込みしてみればよかったですかと思いました。
- 事前にどこを回るのか、初日に教えていただけると予定(ガイドブックをみるなど)が立て易いように感じました。

## 7 報告会

### よかった点

- 他の班の様子を知ることとはとても有意義で、写真を多く使ったパワポも臨場感があってよかったです。
- 他の班がどのような経験をしてきたのか知ることができ、とても有意義でした。
- 発表することで、自分が何を見て、学んできたのかを振り返り整理することができました。

### 改善した方がよい点

- 準備時間にもう少しかけられたらよかったと思います。また、病院、診療の場ということでどこまで実習風景を写真に撮っていいかわからず、また3人でばらばらにいたときもあり、あまり多くの実習写真を残すことができませんでした。(自分の反省ですが…)



## 8 奄美解散

### よかった点

- 実習後の予定が皆さん大変変わったので、奄美大島解散でよかったと思います。
- 奄美でその後楽しみたい方残ることができたこと。
- 奄美観光をすることができたこと。

### 改善した方がよい点

- 実習に申し込んだ時点では、行きと帰りで違う場所で集合・解散になるのは飛行機などの予約がしにくいなあ…とっていました。(相談した旅行会社の方もびっくりしてました)でも、結果をみて納得です。
- 鹿児島に帰る人がほとんどだったので、奄美から鹿児島にどのように帰るのか(空路や船路、時間帯など)、みなさんがどのように日程を立てているのか、事前を知ることができると良かったなと感じました。



## 9 参加費用

### よかった点

- 「実習に参加してみたいけど費用がかかって行けない」という費用ではなかったのが参加できました。低予算に抑えていただきありがとうございました。
- 経験して得られたものの方が費用よりも、大きかったと実感しています。



### 改善した方がよい点

- 事前に、日にちや払うべき金額がわかっているものについては、参加前に教えていただけると当日に焦らずに済むように感じました。
- タゴ飯のときなど、先生方にたくさんご馳走していただいてなんだか申し訳なかったです。

## 10 実習全般

### よかった点

- 離島医療を身をもって経験することができたこと。
- 多くの先生とお話することができ、多くの友人を得ることができたこと。
- 自分の医学を学びたいという気持ちが高まったこと。
- 意欲のある、個性の強い仲間と出会えてすごく有意義な時間を過ごすことができました。

### 改善した方がよい点


- 仕方がないことですが…せっかく他の班の方々とも仲良くなり始めたときに解散はなんだか寂しかったです。全員でいられる時間がもう少しあったらと思いました。
- 徳之島班は2人がもともとのお知り合いということで、最初は少しいづらかったです。すぐに解消しましたが。
- 帰る日のことで、時間、方面、手段を迷っている方が多かったので、もう少し事前にみんなの様子が分かればなあ…と思いました。






# OKINOERABUJIMA

## Access

鹿児島新港  和泊港  
フェリー

鹿児島空港  沖永良部空港  
飛行機

### ◆鹿児島新港からフェリーで

マリックスライン (株) のクイーンコーラルプラス、クイーンコーラル及びマルエーフェリーのフェリーあけぼの、フェリーなみのうえで約 17 時間 30 分

### ◆鹿児島空港から

飛行機で約 1 時間 20 分



## 医療法人 朝戸医院

### ■参加メンバー

【担当：国際島嶼医療学講座 平佐田 和代】

・岩崎 文紘（徳島大学5年）

・木脇 佐代子（秋田大学5年）

・井上 博人（奈良大学5年）

（敬称略）

住 所	〒891-9112 鹿児島県大島郡和泊町和泊14番地
TEL/FAX	電話 0997-92-1131 FAX 0997-81-4005
管理者(院長)	朝戸 末男
メールアドレス	sasato@nisiq.net
診療科目	内科、消化器科、外科、整形外科、眼科
診療時間	平日 午前 9:00 ~ 午後 12:30、午後 2:00 ~ 午後 3:30 土曜 午前 9:00 ~ 午後 12:30 休診・・・土曜午後、日曜、祝祭日
病床数	19床
スタッフ	医師2名、看護師10名、介護師6名、理学療法師1名 ほか
設 備	ECG、内視鏡（上部、下部消化管）、エコー（腹部、心臓、表在兼用）、CT、CR、Holter_ECG、遠隔画像診断システム、通所リハ、居宅介護支援 等



院長 朝戸 末男

●院長からのメッセージ  
外科系有床診療所です。離島とはいえ地理的ハンディを除けば本土の医療機関と変わらない医療ができると思います。介護保険を含めて地域に根ざした自己完結的な医療を目指していますが人口7500名の地域コミュニティで殆どすべての患者、家族が顔見知りであり家庭医としてはやりがいがあります。離島医療の厳しさだけでなく一開業医としての楽しさも体感していただきたいです。

### 施設の特徴・実習内容

昭和57年10月外科系有床診療所として開設。腹部外科、骨折、交通外傷等島内唯一の外科診療所としていろいろな外科、整形外科的疾患に対応してきました。地域のニーズの多様化により最近では高齢者医療、介護保険事業のほか平成18年から鹿大眼科医局より医師派遣を得て眼科診療も行っています。また離島診療というハンディの克服にIT技術を応用する試みを行っており院内LAN構築、画像、診療データのデジタルファイリング、放射線科専門医による遠隔画像診断システムの導入、また高速通信回線を利用したリアルタイム映像送受信による遠隔診療の実験などを行っています。

1日半の実習ですので診療見学が中心になると思いますが訪問診療の同行、上部、下部消化管ファイバースコープ、腹部、心臓エコー、CT、CRなど日常行っている検査、外来小手術などには一緒に入ることができます。またデイケアの送迎車添乗、利用者のバイタルチェック、リハビリ、なども見学、経験していただきます。

この実習を通じて第一線の開業医の医療活動を見ていただき、家庭医療、地域医療について考える機会となれば幸いです。



# 医療法人英世会 大蔵医院

## ■参加メンバー

【担当：国際島嶼医療学講座 平佐田 和代】

・岩崎 文紘（徳島大学5年）

・木脇 佐代子（秋田大学5年）

・井上 博人（奈良大学5年）

（敬称略）

住 所	〒891-9214 鹿児島県大島郡知名町知名16-2
TEL/FAX	電話 0997-93-5033 FAX 0997-93-5036
管理者(院長)	大蔵 英世
メールアドレス	ohkura@po3.synapse.ne.jp
診療科目	内科、胃腸科、循環器科、小児科
診療時間	平日 午前8:30～午後5:00 土曜 午前8:30～午後12:00 休診・・・日曜、祝祭日
病床数	17床
スタッフ	医師2人、看護師7人、栄養士1人、事務2人、給食3人、
設備	CT, エコー（2台）、レーザー、上下内視鏡、レントゲン、ホルター心電図



院長 大蔵 英世



大蔵 聡 先生

## ■施設の特徴・実習内容

地方の平均的家庭医として何でも診療しています。診療の内容もですが、診療のスタイル・やり方を見て下さい。広く浅く、エラーを少なく診療していることが理解できると思います。

### ●院長からのメッセージ

特殊なことはやっていません。標準的家庭医を目標としています。

## 実習の流れ

8月1日(日)

18:00 鹿児島新港発

8月2日(月)

11:30 和泊港着

昼食 朝戸先生と会食・和泊町役場訪問

午後 運動教室実習(タラソおきのえらぶ)

知名: 屋子母 泊

8月3日(火)

午前: 診療所実習(大蔵医院)

午後: 健康教室(知名町)

知名: 屋子母 泊

8月4日(水)

診療所実習(朝戸医院)

夜: 懇親バーベキュー

和泊: 朝戸医院 泊

8月5日(木)

島内環境視察

和泊: 朝戸医院 泊

8月6日(金)

地域診断実習

14:30 和泊発

20:25 名瀬港着

(むつみ寮に入ってからコンビニ調達へ)

21:00 報告会発表準備

県立大島病院「むつみ寮」泊

8月7日(土)

08:00 ~ 13:40 奄美北部観光

14:30 ~ 17:30 報告会(各グループ20分、全体討論30~60分)

18:00 ~ 21:00 食事会(ビーチパーティーBBQ)

県立大島病院「むつみ寮」泊

8月8日(日)

08:00 解散

## 実習後の感想



### 井上 博人 (奈良県立医科大学 5年)

離島医療実習として、沖永良部島の大蔵医院と朝戸医院にて実習させて頂きました。共に有床診療所であり、普段の大学での実習では体験できない経験をさせて頂きました。

大蔵医院での実習では外来見学をさせて頂きました。思っていたよりも多く、さらに多種多様な疾患を持った患者さんが診療所にいられていました。それだけでも大変な事であるはずなのに、先生方は患者さん一人ひとりの生活背景や性格なども頭の中に記憶されておられ、大学病院の電子カルテに頼った診察とのギャップに驚かされました。

また、院長先生から、「中庸の考えとありがとうと常に思う心が大切である。」というお話をさせて頂きました。離島では限られた医療財源しかないの、多くのプレッシャーやストレスがあると思うのですが、このような心構えを身につけておられる院長先生だからこそ、今まで島の医療を支え続けることが出来たのだと思いました。医師は人間性が大切であると、よく言われますが、人間性という言葉は漠然としていて、今ひとつははっきりしていなかったのですが、大蔵先生をみていると、素晴らしい人間性のというものがどのような考え方を基にしているのかが一つの形としてはっきり分かった気がします。

朝戸医院でも外来見学をさせて頂きました。外科系の診療所であるので、外科手技なども拝見させて頂きました。院内はとても綺麗で、さらに朝戸先生の自作の院内LANにより大学病院のようにX線画像がパソコン画面に転送されるようになっていて、離島診療所としてイメージするものと違っていたので大変驚きました。さらに遠隔画像診断サービスを活用しておられ、より専門的な判断が必要な時に放射線科の専門医に判断を仰ぐことができ、それを自己学習にも役立てておられ、医療以外の知識も豊富な朝戸先生の学習意欲を見習いたいとおもいました。その他にも、朝戸先生は離島の医療より質の高い医療を行えるように改善するため色々な方法を考えておられ、地域の医療格差が無くなるよう尽力される姿はとても格好良かったです。

外来においてもネットを活用されておられ、患者さんの疑問などに対しても、ホームページのコピーを渡し理解しやすいよう工夫し、また、新しい手技も積極的に取り入れておられました。離島という閉鎖された場所でも医療の進歩に遅れることなく、不便であるからこそ、色んなものを取り入れ実用化して離島に合った医療を提供されていることが実感できとても良かったです。

2つの診療所での実習と島の方々との交流などをさせて頂き、離島医療にとって必要なこと、それを実現するための考え方など多くのことを学びました。医師としての将来を見据える上で、今回の実習がとても有意義なものとなったと思います。

今回の実習を受け入れて頂いた大蔵医院、朝戸医院の先生方やスタッフの方々、優しく接して色々な話を聞かせて頂いた島民の方々、今回の実習を企画し引率していただいた先生方、本当にどうも有難うございました。





## 木脇 佐代子 (秋田大学 5年)

参加させてもらう前は、離島に行ったことがありませんでした。病院も大学病院しかきちんと見たことがなかったので、どんな違いがあるのか興味がありました。

実際に診療所を見学させてもらうと、両院とも、先生方と患者さんがとても親しげにしているのが印象的でした。先生は一人ひとりの生活状態や職業、家族構成などを把握されていて、診察とともに会話もたくさんされているようでした。その疾患だけでなく、個人を総合的に診るというのが、独特だと思いました。患者さんの立場から見ると、いくつもの診療科に回り病院を回るよりも、ひとりの医師に把握してもらったほうが安心感があるのではないかと思います。医師の立場からすると様々な疾患を診なくてはいけないのが大変そうですが、面白さもあるように思いました。

今回の実習で一番驚いたことは、島民の血液型などをリストにしてあるということでした。輸血で血液搬送が間に合わないとき、島民の方々から輸血できるように、特に警察や自衛隊の方々のリストを作っているそうですが、島全体で協力しているという感じで、すごいなと思いました。

診療所同士も連携していて、なにかあったら助け合うという協力体制ができていました。診断で相談したいときなどもインターネットですぐに鹿児島県や他県の病院へ連絡が取れるようでした。血液検査も毎日血液を鹿児島へ送って検査結果をFAXで送ってもらうとのことでした。また、医師と患者、医師と医師だけでなく、医師と看護師の間でも協力体制ができていて、一体で診療に臨むという姿勢がとても仕事しやすそうだと思いました。

また、朝戸医院では設備も整っていて、エコーなどは新しい機材がそろえてあり、驚きました。高齢者が通って健康教室をおこなう部屋や、運動・作業療法をおこなうリハビリテーション室などもありました。島民の方々は効果が見えやすいリハビリが好きなのですが、作業療法士の人数が少ないということで一人にかかる負担が大きいかとおっしゃっていました。診なくてはいけない疾患が多いと、検査も多くなり、看護師の仕事も増えるため、作業療法士だけでなく、医師、看護師などの個々の負担も大きいと感じました。

今回の実習では、離島という環境で困難な部分もあるかと思いますが、医師や看護師など様々な方々の尽力で一定の医療水準が保たれているのをとても実感しました。

診療所での見学に加え、タラソセラピーや健康教室も島民の方々が温かく迎えてくださり、楽しく参加できました。今までよりも離島への興味も増したと思います。

実習中は今まで知らなかった人とともに1週間を過ごすことで、新たな出会いができ、興味深い話もたくさん聞けたのでとても充実したものになりました。

今回はこのような貴重な体験に参加できて、本当によかったと思います。島民の方々、先生方、事務の方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました。



## 岩崎 文紘 (徳島大学 5年)

今回の離島実習で、教科書や人の話だけでは分からない様々な経験をさせて頂きました。

蔵医院実習では大蔵先生に、開業されたころのお話を聞かせて頂きました。今でこそ沖永良部には1つの病院と7つの診療所があります。しかし、先生が開業されたころは無かったので、昼夜患者さんが来て、それ以外にも急患や島外搬送の同乗もあり、とても大変だったとのことでした。このままでは自身が持たない、と受診制限をしていたほどだったそうです。情熱や責任感が

いくらあっても、一人で出来ることには限界があることを、実体験を交えてお話し下さったことが、非常に興味深かったです。身体を壊しては何にもならない、頑張り過ぎない、終始それを強調されていました。自分ひとりで頑張り過ぎない、これはずっと心に留めておこうと思います。

朝戸医院実習では朝戸先生に、外科医の視点から見た島の医療のお話を聞かせて頂きました。外科手術は一人で出来ないこともあるので、他の病院や診療所の先生を応援に呼んだり、逆に応援に駆け付けたりするとのことでした。スタッフや人員が限られた島の医療ならではの協力体制を知ることが出来て、非常に勉強になりました。また、急性心筋梗塞や脳卒中はヘリ搬送が必要なので、一分一秒を争います。ただ昔と違いそれらの疾患の治療技術は進歩しており、発症から二時間でヘリ搬送することが出来れば、助かることも増えたとのことでした。しかし、医療従事者を含め島民の方々は、心のどこかでは、搬送に時間がかかることによる最悪の事態に対して覚悟はしているとのことで、そういった心構えのお話を聞いたのも良かったです。

この島で生まれこの島で育つことが、島民アイデンティティ・地元愛を形成する上で重要なので、産婦人科や小児科は島には必要とのお話には、目から鱗でした。何年か前、とある地域で小児科医療の存続のために奮闘されている先生にお会いすることがあったのですが、その地域自体を存続させるという意味でもとても重要なことをされていたのだと、今更ですが、知ることが出来ました。

その他、飛行機ではなくあえて船に揺られて何時間もかけて行くことで、離島らしさを実感できました。また、住民の方々の話を聞かせて頂いたり、島内を観光することで、先生方や住民の方々がこの島にどれほど地元愛をもっているのか、実感出来たと思います。自然環境が綺麗で豊かで、時間ものんびり流れて、この島を離れたくないとおっしゃっている方もいました。

離島という地域特性に合わせて医療を行うという、ある意味地域医療の原点を体験させて頂き、とても勉強になりました。

鹿児島大学国際島嶼医療学講座・大蔵医院・朝戸医院のスタッフの方々また沖永良部の方々には、大変お世話になりました。写真もたくさん撮らせて頂きまして、ありがとうございました。写真はスライドにして、今回の実習を徳島大学地域医療研究会のメンバーに発表させて頂きたいと思います。



## 1 前日の食事会

### よかった点

- 他の実習班の人と話をすることができた。
- 鹿児島の特産物が食べられたのが良かったです。
- お酒が入ると、初対面でも打ち解けやすかった。翌日の船中でも、お互い肩の力が入らずに接することが出来て非常に良かった。
- 事前に顔がわかり、次の日フェリーで話しやすかったと思う。

### 改善した方がよい点

- 待ち合わせの場所が良く分からなかったです。店の中とか店の前とか具体的に連絡してもらった方が誤解がなくて良いかなと思います。
- 食事会の時点で名札などがあつたらさらにわかりやすかったかも。

## 2 ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

### よかった点

- 買出しに行くことで、実習班での連携がとりやすくなった。
- 時間に余裕があつたので、皆で色々な話をすることが出来た。

### 改善した方がよい点

- 自己紹介のときに、簡単な質問などの時間をとって良いのかなと思います。
- 1号館と2号館が最初わからなかった。

## 3 フェリー

### よかった点

- 食事をみんなでするのは良かったと思います。
- 飛行機とは違いゆっくりしているので、他の班の人と色々な話が出来た。



- 嶽崎先生のオツマミが美味しかったです。
- 時間をかけて島に行くので、離島らしさを実感できたこと。

### 改善した方がよい点

- フェリーの船の種類は前もって調べて行った方が良いと思います。
- 人数がそこそこいて、前もってフェリー会社に言っておけば、2等の中でも個室みたいなのところにしてくれると思うので聞いてみてください。
- 改善のしようが無いが、船酔いしやすい人にはなかなか大変だった。あらかじめ酔い止めを飲んでおくべきだった
- 私は大丈夫でしたが、船酔いしてた人は長時間だときついと思う。

## 4 実習先(医療機関・行政機関)

### よかった点

- 大体全てにおいて良かったです。
- 外科系と内科系の両方の診療所を見れたので良かった。



### 改善した方がよい点

- 島の医療を行政の側面から見るのも興味深いので、行政の方々とお話をする機会が無かったのは少し残念だった。
- 予定の都合で行政機関の実習が出来なかったのが残念でした。

## 5 宿泊施設(各地施設・むつみ寮)

### よかった点

- 朝戸医院は綺麗でご飯も美味しく、素晴らしかったです。
- 宿泊料をご負担して頂いてとても助かりました。
- 診療所の宿泊がよかった。
- 沖永良部の宿泊施設は、目の前が海だったこと。むつみ寮は病院とコンビニが近くで便利だったこと。



## 改善した方がよい点

- 建物の古さは個人的には気にならなかったが、毎晩大きなゴキブリを見たのが驚いた。人によってはなかなか刺激的ではないかと思う。
- むつみ寮で、寮に住んでいる方々に迷惑を掛けてしまった気も・・・申し訳なかったです。

## 6 観光

### よかった点

- 時間が十分あったので、色んなところを観光できて良かったです。
- 島の自然環境を余すところなく満喫できたこと。

### 改善した方がよい点

- 奄美パークでもう少し時間がほしかったかも。



## 7 報告会

### よかった点

- 他の実習班がどのような実習を行っていたのかが分かり良かったです。
- 島よっての違いを比較することによって、さらに離島医療の実際が理解でき良かったです。
- 奄美新聞に掲載されて嬉しかった。
- 他の班の実習の発表も聞いたこと。色々な地域出身者と地域医療について討論できたこと。
- 他の班がどのような実習をおこなったかがわかり、島よって少しずつ異なっているということがわかった。



### 改善した方がよい点

- 奄美観光の前にしても良かったのではと思いました。

## 8 奄美解散

### よかった点

- 解散後もむつみ寮に残ることができた。
- バス停までの行き方などのアドバイスがもらえ非常に助かりました。
- 帰りの手段を選択できたこと。
- 8日に自由にできたのでよかった。

### 改善した方がよい点

- バーベキューが終わってから解散までがなんとなくばらばらできちんと挨拶できなかった人もいたので、時間が取ればよいような。

## 9 参加費用

### よかった点

- 交通費の他は色んなところで負担してもらえたので、とても助かりました。
- 格安で参加できたこと。
- いろいろと補助してくださったので負担が減って助かった。

### 改善した方がよい点

- 特になし。

## 10 実習全般

### よかった点

- 離診療所の方々に本当に親切にして頂きとても充実した実習になりました。
- 離島の住民の方々と話し出来る、健康教室などに参加させてもらったのが良かったです。
- 離島の環境も含めて、離島医療に触れることが出来たこと。他大学の学生と色々な話が出来たこと。
- 島での医療がどのようなものなのかがわかってよかったと思う。他県の学生と色々な話をする



機会ができてよかった。

## 改善した方がよい点


- パソコンやデジカメの返却などについて、報告会のときに決めておいてしまっていた方が良かったと思いました。
- 解散時間などは予約もあるので事前に掲示しておいてもらえたほうが良いかなと思いました。
- ドクターヘリなんかも実際に見れたら良いなと思いました。






# YORONJIMA

## Access

鹿児島新港  与論港  
フェリー

鹿児島空港  与論空港  
飛行機

### ◆鹿児島新港からフェリーで

マリックスライン (株) のクイーンコーラルプラス、クイーンコーラル及びマルエーフェリーのフェリーあけぼの、フェリーなみのうえで約 15 時間

### ◆鹿児島空港から

飛行機で約 1 時間 20 分



# パナウル診療所

## ■参加メンバー

【担当：国際島嶼医療学講座 教授 嶽崎 俊郎】

・安井 理（高知大学 5年）

・八代 悠希（鹿児島大学 3年）

・坂田 桃子（鹿児島大学 3年）

（敬称略）

**住 所** 〒891-9300 大島郡与論町大字那間2747-1

**TEL/FAX** 電話 0997-97-2073 FAX 0997-97-5164

**管理者（院長）** 古川 誠二

**メールアドレス** simba@doctor.email.ne.jp

**診療科目** 内科・外科・小児科

**診療時間** 平日 午前 8:30～12:00 午後 16:30～18:00 ※月・木は16:00～18:00  
土曜日 午前 9:00～12:00 午後 休診 日曜日：休診

**設 備** 心電図、内視鏡（胃カメラ・大腸ファイバー・気管支ファイバー）、  
エコー（腹部・心臓兼用）、単純レントゲン、電子カルテ、全自動血算器、  
呼吸機能検査器、Holter心電計、動脈硬化測定器



古川 誠二 先生

## ■施設の特徴・実習内容

- 1) 木造平屋建築の外来と健康増進室があり、薬局は院内処方に対応。検査はSRL西日本に依頼。検尿、赤沈、CBCは院内で。レントゲン室、牽引、SSP等の簡単なリハビリ実施。
- 2) スタッフは医師1名、看護師3名、事務部4名。
- 3) プライマリ・ケア医として地域とともにいかに生きるか。実技と地域の人間としての生き方についても実習。実技では内科一般、外科の小手技、小児、皮膚科、眼科などの治療を幅広く行い、腹部エコー、胃カメラ大腸ファイバーなどの実習も行う。
- 4) 島嶼医療のポイントであるトリアージについて考えよう。救急搬送すべきか、時間の余裕は？  
ターミナルケアの見取りなども機会があれば実習していただく。

### ●院長からのメッセージ

- 1) 人間とは、医師とは何者か？じっくりと自分自身に問いかけてほしい。
- 2) 島嶼の医療システムを理解してほしい。3000年の歴史を持つ限られた島の生活空間の中で築き上げてきた生活様式、文化、価値観、常識など全般の理解と、そこに暮らす人間関係のあり方。
- 3) プライマリ・ケアとはなにか？その基礎から臨床まで。プライマリ・ヘルスケアの実践との連携を考えて、世界の発展途上国のことにも関心を持ってほしい。
- 4) 在宅医療の現状とその問題点 地域社会、家族との関係においてどのように変化していくか。与論の現状とその変遷。
- 5) 海と健康 代替療法、総合医療等を理解してほしい。
- 6) 医療システムの中の開業医の立場とあり方について考えてほしい。

## 実習の流れ

### 8月1日(日)

18:00 鹿児島新港発

### 8月2日(月)

13:40 与論島着

15:00 与論町役場訪問 以後自由行動

18:00 歓迎会(BBQ)

与論活性化センター 泊

### 8月3日(火)

診療所実習(パナウル診療所)

与論活性化センター 泊

### 8月4日(水)

診療所実習(パナウル診療所)

与論活性化センター 泊

### 8月5日(木)

地域診断実習

与論活性化センター 泊

### 8月6日(金)

地域診断実習

12:10 与論港発

20:25 名瀬港着

(むつみ寮に入ってからコンビニ調達へ)

21:00 報告会発表準備

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月7日(土)

08:00~13:40 奄美北部観光

14:30~17:30 報告会(各グループ20分、全体討論30~60分)

18:00~21:00 食事会(ビーチパーティーBBQ)

県立大島病院「むつみ寮」泊

### 8月8日(日)

08:00 解散

## 実習後の感想



### 安井 理 (高知大学 5年)

与論島での実習、奄美大島での報告会の後、沖縄に渡り、来年に迫ったマッチングをほんの少しながら意識しつつ、2つの病院で見学実習を行ってきた。そして、その2つの病院とも救急を中心に回らせてもらった。ひっきりなしに運び込まれてくる救急患者さんを前に、てきぱきと対応し働く医師や看護師。そんな姿に、学生の私はただ感心させられるばかり。

ただである、自分もそんなデキル医師になりたいと思いつつ、そこで繰り広げられる光景に何とも言えない違和感のようなものも感じてしまう。文字通り濃厚な医療がそこにはあった。もちろん患者さんやその家族の願いであれば医療者としてできる限りのことをしてあげべきなのだろう。しかし、今となってははっきりとした意識のないこの患者さんは、自分がこのように扱われることを望んでいたろうかとも考えてしまう。

そんな時、与論島の診療所で見えた光景や、診療所に掲げられていた先生の作った詩の文句が頭の中に浮かんでくる。

誰もがみんな 自分の家で死ねる島があるという

家族に守られて 魂の先立つ島だという(一部抜粋)

壮絶な救急の現場とは全く空気の異なった医療の一つの姿を、つい1週間ほど前に見ていたのだと思います。限られた検査や治療しか受けられない離島の医療と、必要なものはほとんど揃う大きな病院での医療。もちろん医療レベルという点で見れば島での医療は足りないものも多かったと思う。それでも住み慣れた家で家族に見守られながら最期を迎えることができることは大きな意味を持つ。

特に、死後の魂が死んだ場所にとどまると考える与論では、最期をどこで迎えるかは重要になってくる。今回は離島での実習だったが、離島医療の特異さを学んだというよりも、可能な限り在宅死を実現させようとするパナウル診療所の古川先生や関係者の方の姿勢を見ることができたのが、今回一番の収穫だったように思う。

訪問診療でお邪魔した最初のお宅では、一続きになった部屋で、寝たきりになったおじいちゃんの横、小学生のひ孫や近所の友達が遊んでいた。とても印象的な光景であったが、そんな光景も、与論だからこそ見ることができたのだろう。

もちろんこの実習を通して、離島ならではの医療システムやそこで抱える問題点などもわずかながら垣間見ることができたと思う。また、離島医療に今まで以上に興味がわいてきた。将来自分がどのような分野に進むことになるのか、正直なところ自身でも全く分からない。しかし、どのような働き方をするにせよ、「そういえば与論はあんなだったな」、あるいは「古川先生はこうだったな」などと、今回の経験を振り返ることがあるのではないかと思います。

今回このような貴重な学びの場を与えてくださったすべての関係の方々に心からお礼を申し上げたいと思う。

とうとうがなし!





### 八代 悠希 (鹿児島大学 3年)

今回 8月1日から8月8日の実習では、与論島で、古川先生のいらっしゃるパナウル診療所でお世話になった。私は地域枠の学生として、昨年まで鹿児島大学で二度の実習に参加しているが、今回のように鹿児島大学以外の学生の方と一緒に参加させていただくのは初めてだった。

地域医療に情熱のある、刺激を与えてくれるような人に出会えるのではないだろうかという期待と、将来、実際離島や僻地で働くであろう私の意識や知識はまだまだと実感させられるのではないだろうかという不安と、例年になく複雑な気分で実習までの日を過ごした。

今回の実習は、私にとってとても得るものが大きかったように思う。期待も不安も、現実になることはなく、私の意識は他の方々の以上でも以下でもないとわかった。こういった実習に参加する人すべてが、離島で働きたいと思っているわけではないが、ただ他の学生と違うのは、都会で働くのがいいとか悪いとか、そういう決めつけたところがないということのように思われた。どこが一番やりがいがあるか探している中で、離島を見てみたいと考えていた人が多いように思う。

私は今回実習の中で、古川先生という大変素晴らしい先生に出会うことができた。患者さんや先生の周りにいらっしゃる方々、学生である私たちにも常に温かく、話して下さることにもすべてに人柄が表れていた。日常生活の中で大切にしなければいけないもの、当たり前のように考えているけれど見直さなければいけないことなどをたくさん伝えてくださった。先生の患者さんへの温かさはもちろん人柄からでもあるが、先生の培った医師としての能力からでもあると思う。いかに機械を使わずに診断をするか、どのように患者さんの話を聞くか、一つ一つすべてのことが勉強になった。

島民の方々も、みなさんまるで親戚の帰省のように温かく迎えてくださった。観光に出かけてもお店に行っても、とても楽しそうにお話して下さって、帰る時には決まってまた来てくださいね、と、社交辞令とは思えない表情でおっしゃった。島の小ささも、住んでいる方にとっては無責任な発言に聞こえるかもしれないが、私にはとても不安なく過ごしやすいかった。

素晴らしい人々、素晴らしい自然に囲まれてこの実習を過ごせたことを大変有り難く思う。最終日は、もう終わりかと思うととても寂しかった。学生の方々に、地域医療に対しての話をする時間をあまり作れず、終わってしまったから、聞きたかったことがあったのに聞けなかったと気付いたのが私の反省点であり、残念なところだった。たくさんのことを学んだし、これから考えるたくさんの課題も見つかった。実習前の想像をはるかに超える、充実した一週間だった。

企画して下さった先生方、与論の方々、古川先生はじめパナウル診療所の皆様、今回実習に参加された11名のみなさん、楽しい、充実した時間を本当にありがとうございました。



### 坂田 桃子 (鹿児島大学 3年)

今回、離島医療実習ということで与論島のパナウル診療所で2日間の実習をさせていただきました。講義も臨床に入ったばかりの私にとって、普段みる機会のない診療はすべてが新鮮でした。

私はなによりも先生の人柄に惹かれました。先生が一人一人のお話を丁寧に聞いてらっしゃった姿や、「臓器を対象とせず、あなたを対象とする」ということばがすごく印象的です。

先生は離島医療の在り方、プライマリケアについて、その他医療や離島のことだけでなく、さまざまな分野のお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。

また訪問診療や懇親会などを通して島民の方の生活や環境、医療との関わりや考え方を実感することができました。

都会でも研修された研修医の先生がいらっしゃったので、都会と離島の医療の違いについてお話を伺うこともできました。

普段、交流のない他大学の方とお話でき、参考になりました。私の医学知識のなさ、医療についての意識の低さを実感しました。

観光も十分楽しめ、一生の思い出になる貴重な体験となりました。

講義とテストの毎日では学べないさまざまな経験ができ、素晴らしい出会いがあり、この実習に参加して本当によかったです。この体験を十分に生かせるよう努めていきたいと思います。

受け入れてくださった病院の方、島民の方、企画してくださった先生方、お世話になった多くの方々に感謝します。本当にありがとうございました。



与論町長 南 政吾氏と

## 1 前日の食事会

### よかった点

- 事前に参加者と打ち解けられた。
- 実習出発前に参加される方々とお話しできてよかった・直前まで実習があり食事会に参加できませんでしたが、是非これからも食事会はあったらと思います。

### 改善した方がよい点

- 参加できる方がもう少し増えたらよりよいものになると思う。席を途中で入れ替えるなど、もっとたくさんの人と話せばよかったと今思う。
- 私を含め日程的に参加できない人がいましたが、仕方ないかと思います。ただ、募集後できるだけ早い時期から食事会があるとの旨連絡があるといいかと思います。

## 2 ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

### よかった点

- フェリーであるような場を持つよりも、乗船前にミーティングの場があり良かったです。
- 交通の便から鹿児島中央駅近くを会場に選んだのでしょうか。個人的には行きやすかったです。費用もかさむのでしょうか？
- みんなで買い物について、交流を深められた。

### 改善した方がよい点

- 時間が少し長かった。話ができただけでそれほど問題ではなくよかったかもしれない。



## 3 フェリー

### よかった点

- 食前日の食事会に行けなかったため、他の島のメンバーとゆっくり話す時間がなく、フェリーの中でそのような時間が持てたのは非常に良かったかと思います。船があまり揺れなかったこ

ともありますが、個人的には時間的にもちょうどいいものだったと思います。

- きれいなフェリーだった。
- 経験の意味では揺れも体験できてよかった。

## 改善した方がよい点

- 船酔いをどうにか(笑)
- 行きはよかったのだが、与論から大島がきつかった。

## 4 実習先(医療機関・行政機関)

### よかった点

- パナウル診療所、町役場、ヨロン園と、島の医療福祉を担う各施設を見学させていただき良かったです。他の実習班と比べて島に滞在する時間が短かったのですが、見学実習と観光の割合も良かったかと思います。
- パナウル診療所での実習も、まさに離島医療の現場と言えるものを見ることができ、先生方のお仕事をなさっている姿から、医学生としても人間としても勉強させていただきました。非常にいい実習になりました。
- どの方も暖かく迎えてくれた。
- 実習先はとても恵まれたと心から思う。先生の人柄、知識にとっても感動した。奥様にもよくしていただき、とてもうれしかった。



### 改善した方がよい点

- 保健所が島にないこともありますが、町の保健医療を役場で担当している方のお話を機会があるとより包括的に島の様子をつかめたかと思います。
- また、島で暮らす住民の方と話す機会をあらかじめ設定してもいいかと思いました。医療現場と直接関係ない方のお話をお伺いする場と言ったらいいのでしょうか。ただ今回私たちは役所に勤めている職員の方と話す機会も多く、その代わりになったかと思います。あと、個人的には民俗村に観光に行き、そこで説明してくださった方と少し話をするのができ、島の違う一面を知ることができ良かったです。



## 5 宿泊施設(各地施設・むつみ寮)

### よかった点

■朝活性化センターはクーラーが付いていたので、それだけで十分及第点に達していると思います。むつみ寮も大きな問題はなかったかと思います。この実習に参加している学生は、リゾートホテルのようなものを期待している人は少ないと思うので、全般的に特にこのままでいいかと思います。



■自炊・洗濯ができ、自転車がつかえた。

■あの施設を貸していただけるおかげで金銭的にも助かったと思う。台所もあり洗濯もでき、よかった出ばかりです。

### 改善した方がよい点

■各宿泊施設に何があるのか(洗濯機の有無など)、事前に情報があるといいかと思います。

## 6 観光

### よかった点

■楽しかったです！ただ、百合が浜が出る潮でなかったのが残念でした。

■1日でちょうどよかった。

■自分たちで決められたために好きなように動けていい思い出ができた。



### 改善した方がよい点

■もっと効率よくいいところを回れたのかもしれない。例などもしあればよかったかもしれない。

## 7 報告会

### よかった点

■報告会という場を持たないとまとめる作業がないまま終わってしまうので、あのような形で報

- 告会をするのはとてもよかったと思います。
- ほかの班の様子を知ることができた。
- かたくもなく、くだけすぎるわけでもなく、話しやすい雰囲気がよかった。



## 改善した方がよい点

- 私たち学生側の問題になるかと思いますが、ディスカッションがあまり活発でなかったのが残念でした。フェリーの中でお互いリラックスして実習の話をする時間があつたのに、報告会の場だけみんな大人しくなってしまったのはどうしてでしょうか。今更アイスブレイキングの時間を持つような間柄ではないですし、どうしたらよかったのでしょうか？
- ちなみに、ポリクリ中にある実習後の班ごとのミーティングでは、お菓子を食べながらディスカッションをやっていました。演者との距離感ほか、何かちょっと場の雰囲気を変える何かがあつたら変わっていたかも知れません。

## 8 奄美解散

### よかった点

- 遊びたい人は遊べ、帰りたい人は帰れるので、今回のように現地解散で良かったかと思います。
- 自分の帰りたい時間と方法で帰れる。
- 鹿児島解散がよかったとはじめは思ったが、その後の予定のある人もいらつしたのでよかったと思う。

### 改善した方がよい点

- 早い段階で、解散の日時が分かつたら良かったかと思います。

## 9 参加費用

### よかった点

- お金を払ってでも行きたい、でも高すぎない、のバランスがとれていて良かったと思います。税金を払っていただいている国民の皆さんに感謝です。
- あれだけの経験をさせていただいて、この値段はすごいと思いました。

- 施設代、食費など、最小限に抑えてくださっていて助かった。

### 改善した方がよい点

- 特にありません。



## 10 実習全般

### よかった点

- まとめきれないほど充実した実習だったと思います。かわいい女の子2人と一緒の実習だったのも最高でした(笑)
- 全部。
- たくさんの人と知り合えて、またパナウル診療所では大変いい経験をさせていただけて、すべてがいい思い出になりました。

### 改善した方がよい点

- パ東医対、西医対と重なってしまう日程は要検討かと思います。多くの学生がこのために実習に参加できなくなっているのではないかと思います。



# アンケート

## 参加大学

- 東海大学 2名
- 昭和大学 2名
- 秋田大学
- 近畿大学
- 奈良県立医科大学
- 徳島大学
- 高知大学
- 鹿児島大学 2名

## 学年

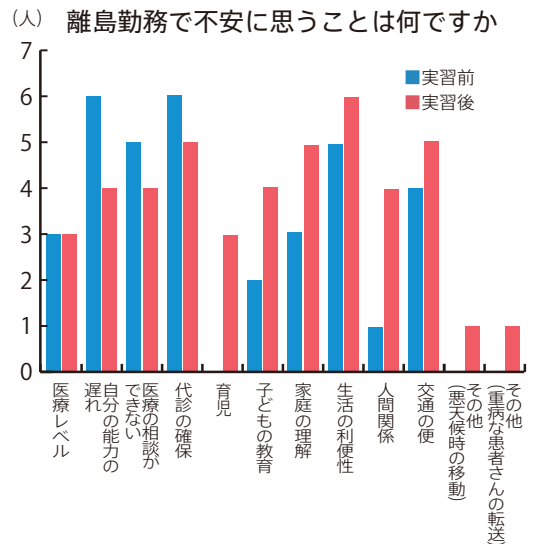
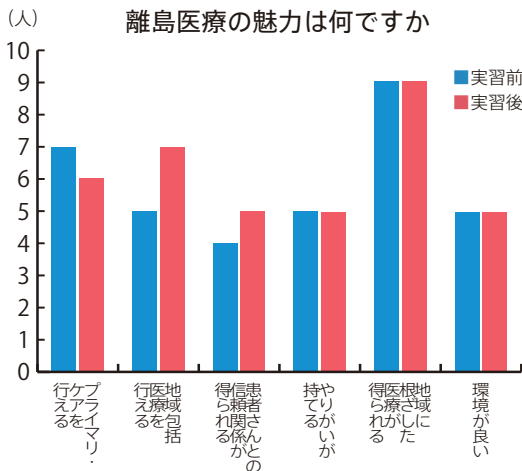
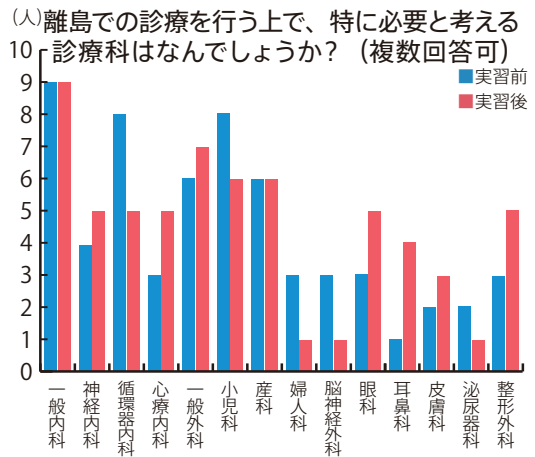
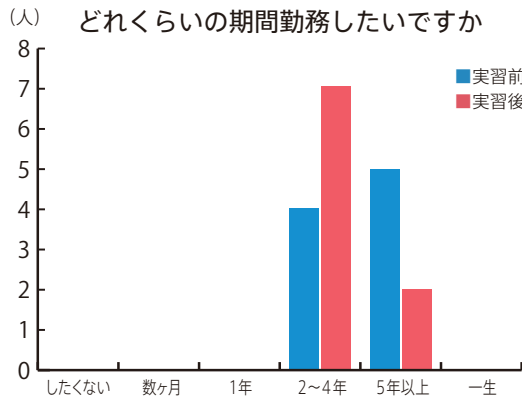
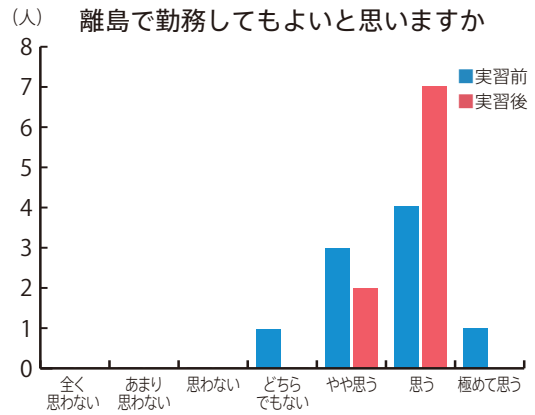
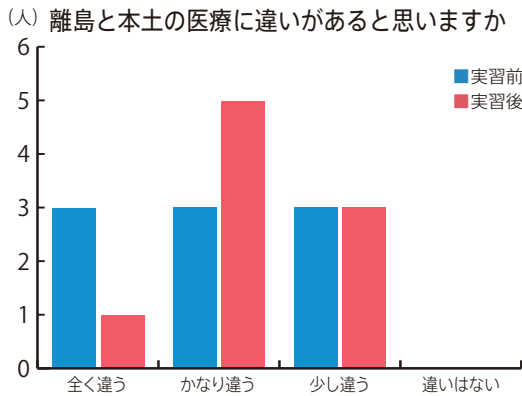
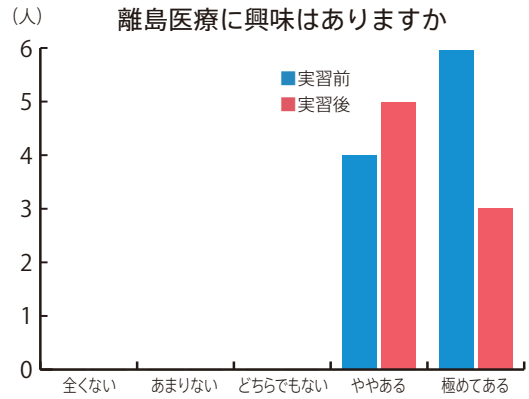
- 6年生 1名
- 5年生 4名
- 4年生 4名
- 3年生 2名

## 性別

- 男 5名
- 女 6名

## 離島に行ったことがあるか

- 0回 3人
- 1回 2人
- 2回 1人
- 3回以上 3人



## 全国医学生離島実習の意義と成果

離島へき地医療人育成センター 特任教授 大脇 哲洋

今回で3回目となる、全国から公募した医学生への離島実習ですが、これは主催者側にも大きな意義があります。今回は14名と看護師1名でしたが、彼らは自費での参加であり、地域医療に対するモチベーションは高いのです。そのモチベーションの高さはどこからくるものなのか、直接話をする事で解ることも多々あります。また、鹿児島大学以外の大学の地域医療教育に対する取り組みを、他大学の医学生目から見た形で把握できます。私たちが鹿児島大学の医学生に行っている離島実習が、全国的に見てどのような評価であるのか、これも直接聞くことができます。

参加した医学生も、実習から直接得るものは大きいし、見知らぬ同じ興味を持つ医学生同士が集まることで、広く目が開かれ、これからの財産になってくれれば、これもまた私たちの大きな喜びです。

今回の実習の報告会(於：鹿児島県立大島病院講堂)での総評は次のとおりでした。

- ・大学での医療との違い、プライマリーケアを考えてもらうことができた。
- ・やりがいを強く感じながら医療を行っている医師を、直接感じてもらうことができた。
- ・地域の住民に対し、何が必要かを考えるのが、地域医療である。そのことを感じてくれた。
- ・全人的医療の具体例を見ることができた。
- ・完結しないといけない医療のレベルが高い(求められるもののレベルは高い)。難しさのひとつである。
- ・学生教育に関して：検査値、画像に頼りすぎではないか。できることが限られている中での診断能力の向上が重要であることが解った。

以上のように、主催者側が希望した、離島実習の目的は感じてもらえたようです。

地域医療教育は全国的に始まったばかりです。その中で、私たちの実習を経験した学生たちが、その体験を基に、自分たちの同級生や後輩たちに、また新たな地域医療のあり方を伝えてもらえればうれしい限りです。これからの活躍を期待します。

今回も、多くの先生方、診療所・病院のスタッフ、自治体の皆さま、地域の皆さまの献身的なご協力をいただきました。私たちだけでは、このような企画は全くできないものです。感謝申し上げますと共に、これからも地域医療の充実の為の医学生の教育や、医師のキャリアアップが進むように努力してまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い致します。



